

地名示す二つの軌道

文人の
武蔵野

村上春樹 ⑬

村上春樹の長編小説「ス
プートニクの恋人」には、
「こちら側」に対する「あ
ちら側」という世界線が明
示されています。双方の住
還可能性が示唆されている
点も含めてスピリチュアル
な物語と言えそうですが、
作中の恋愛関係のイメージ
は、宇宙物理の法則に基づ
く地球と人工衛星の関係性

◆「スプートニクの恋人」に登場する主な地名



によって語られています。
ロシア語で「旅の連れ」
を意味する世界初の人工衛
星「スプートニク」は、地
球の引力に引き寄せられて

国立に住む男は吉祥寺に
住む武蔵野の女に片恋慕し
ています。吉祥寺に住む女
は青山に住む女（既婚）に
心を奪われ、青山の近くの
代々木上原に引っ越しま
す。ふたりは連れ立ってギ
リシャに旅立ちますが、結
ばれることはなく、代々木
上原の女はギリシャの島で
失踪します。男は捜索に行
きますが迷宮入り、島での
踏査と残された文書の内容を
通じて、男は女が「あち
ら側」に行ったのだと認識
します。

「失踪」のモチーフは村
上春樹作品の定番です。し
かしこの物語は失踪で
終わるのではなく、立川の
スーパーマーケットで急展
開します。

国立に住む男は小学校の
教師で、教え子の母親と肉
体関係をもっていました。
男は一人称の語り手です
が、倫理的な葛藤は語りま
せん。しかし、教え子が万
引きしたのをきっかけに母
親との関係を断ち切りま
す。それは罪の意識や相手
家族への気遣いによるもの
ではなく、愛する失踪した
女のためでした。

↓武蔵野】と、男の【国立
↑吉祥寺↓ギリシャ↓立川
↓武蔵野】という二つの軌
道の重心移動を指摘できそ
うです。

総合すると、国立を起点
に吉祥寺に向いていたベク
トルが国境を越えて無意味
化されますが、吉祥寺とは
逆方向の立川での出来事を
経て失踪の解消（帰還）が
招来されたという構図にな
ります。武蔵野圏における
ローカルな場所で見いださ
れた子どもの存在が男のモ
ラルティに働きかけて事
態が好転したのかもしれま
せん。

スプートニクの恋人は、
みずからの遠心力と地球の
重力との均衡を保てたので
しょうか。（敬称略）
（武蔵野大教授、むさし
野文学館館長・土屋忍）

過去の連載は、読売新聞
オンラインでお読みいただ
けます。スマート
フォンはQRコー
ドから。